

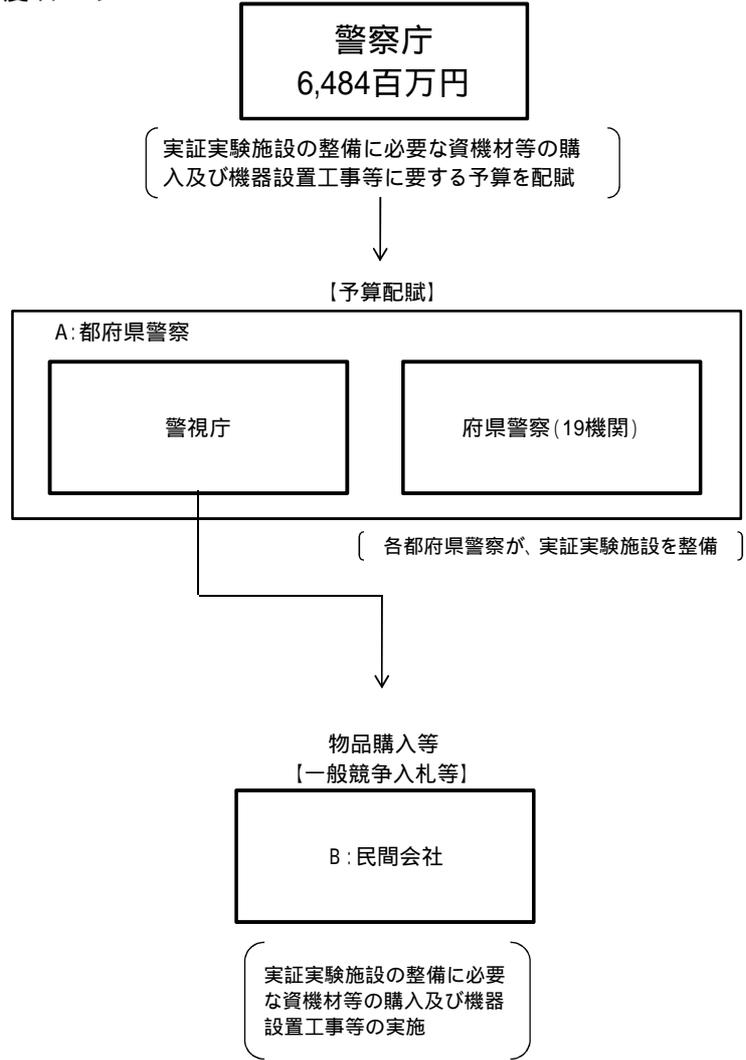
平成25年行政事業レビューシート (警察庁)

事業名	信号情報提供による安全運転支援技術の確立のための実証実験		担当部局庁	交通局		作成責任者	交通規制課長 和田 昭夫		
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度～平成25年度		担当課室	交通規制課					
会計区分	一般会計		政策・施策名	安全かつ快適な交通の確保 3 道路交通環境の整備					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	日本経済再生に向けた緊急経済対策					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	信号情報提供による安全運転支援技術の確立するための実証実験を20都府県警察に予算を配賦して執行する。具体的には、自動車ドライバーに交信信号待ち時間等の情報を提供することにより、追突等の事故を防止するとともに、ゆとりある運転を促進することによる安全運転支援を推進する。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	事故類型別の交通事故では追突が最多で、これに次いで出会い頭、右左折時衝突が多いが、特に信号交差点では、前車の急停止による追突、無理な進入(赤信号無視)による右直事故等が発生している。現在、歩行者灯器については、歩行者用交通信号待ち時間表示装置が普及しつつあり、歩行者の無理な横断を防止するほか、心理的にゆとりある行動につながっている。そこで、自動車ドライバーについても同様の情報を提供することにより、これらの事故を防止するとともに、ゆとりある運転を促進することによる安全運転支援を推進する。								
実施方法	直接実施	委託・請負	補助	負担	交付	貸付	その他(予算配賦)		
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
		補正予算	-	-	6,499	0	-		
		繰越し等	-	-	6,484	6,484	-		
		計	-	-	15	6,484	-		
	執行額	-	-	0	-	-			
	執行率(%)	-	-	0%	-	-			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (25年度)	
	(成果目標) 全国の光ビーコン数の6%にあたる3,200基から信号情報提供を可能とする実証実験施設を20都府県に整備 (成果実績) 実証実験施設を20都府県に整備			成果実績	都府県	-	-	0	20
				達成度	%	-	-	0%	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込	
	システム整備数			活動実績 (当初見込み)	都府県	-	-	0	
単位当たりコスト	324.95(百万円/1県あたりの整備コスト)			算出根拠	1県あたりのH24年度一次補正予算額 (6,499百万円/20都府県)				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由					
	計	0	-						

事業所管部局による点検						
	項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。			H21年度に実施した交通安全に関する国民の意識調査(内閣府)によると、国民の9割近くの人が、道路交通事故をゼロにすべき、あるいは、大幅に減少すべきと考えている、との結果が得られており、国民の道路交通事故のない社会を目指すニーズは高く、安全運転支援技術の確立は優先度の高い事業である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。					
事業の効率性	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。					
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		-			
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		-			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		-			
事業の有効性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		-			
重複排除	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-			
	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果						
	本件については、未執行である。 事業の成果目標については、適切に設定されている。					
外部有識者の所見						
24年度から繰り越したものについては早期に事業実施に努めること。						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	事業目的達成に向け、執行状況の確認等に努めること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	事業実施都府県へ早期執行を促す事務連絡を発出し、定期的に執行状況について確認している。(事業の終了)					
備考						
特になし。						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	-	平成23年	-	平成24年	-

平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

<平成25年度イメージ



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

信号情報の提供による安全運転支援技術の確立

現在、歩行者灯器については、歩行者用交通信号待ち時間表示装置が普及しつつあり、歩行者の無理な横断を防止できているほか、心理的にゆとりある行動につながっている。

自動車についても同様の情報を提供することにより、信号交差点での事故を防止し、ゆとりある運転を促進することによる安全運転支援が可能となる。

